

令和 6 年度管路耐震化の状況

1. 基幹管路の耐震化の状況

	管延長 (m) (A)	耐震適合性のある 管の延長 (m) (B)		耐震適合率 (B) / (A)	耐震管率 (C) / (A)
			耐震管の延 長 (m) (C)		
送水管	17,150	8,133	521	47.4%	3.0%
配水本管	7,483	2,739	139	36.6%	1.9%
基幹管路(計)	24,633	10,872	660	44.1%	2.7%

- ※送水管 浄水場から配水場、配水場から配水場へ水を送る管路をいいます。
 配水本管 当企業団では配水場直下の最大口径の配水管路をいいます。
 基幹管路 送水管と配水本管をいいます。
 耐震管 接合部が離脱しない構造となっている管をいいます。
 耐震適合性のある管路の延長 地盤の性状を考慮し良い地盤に布設された管と耐震管の合計をいいます。

2. 配水支管の耐震化の状況

平成 23 年度から口径 75 mm以上の配水管布設工事については、耐震継手を有したダクタイル鋳鉄管及び熱融着継手式水道用ポリエチレン管を採用しています。

	配水支管延長 (m)	耐震管の延長 (m)	耐震管率
R2	437,978	37,172	8.5%
R3	439,548	39,591	9.0%
R4	441,474	42,441	9.6%
R5	443,582	144,637	32.6%
R6	446,113	150,960	33.8%

注：配水支管の耐震管率は、令和 5 年度よりレベル 1 地震動に対して、健全な機能を損なわない耐震性能を表しています。